

平成30年度和歌山県学習到達度調査 結果分析と指導のポイント(小学校国語科)

分かりやすく、伝わりやすい文章を書くために【主語・述語の関係 一文を二文に分けて書く】

H30全国学調
の課題！

述語を「決まりました」と書いている誤答
が多くありました。

【正答例】
係が、一学期中に三回と決めた。

指導事項
3・4年B才

正答率
28. 5%

無解答率
12. 0%

第5学年 3(1)

(1) 活動内容についての——部を、[中田さんのアドバイス] を受けて書き直しなさい。

※回数について、係が、一学期中に三回と決まりました。

[中田さんのアドバイス]

主語と述語が対応していないよ。
文末を直したらどうかな。



二文に分けて書くことができない
誤答が多く見られました。



【正答例】
一学期は、活動内容をみんなの希望が多いものから選んだ。二学期は、みんなの希望が多いものから選ぶだけではなく、係からも活動内容をていねいに案していいよ。うつるも思つ。

指導事項
3・4年B才

第5学年 3(3)

条件

○ 小山さんの二つのアドバイスにこだわること。

同じ言葉は、省略したらどうかな。



今後の活動についてを、「小山さんのアドバイス」を受けて書き直しなさい。
ただし、あなたの【条件】に合わせること。

小山さんのアドバイス

正答率
37. 6%

無解答率
12. 2%

チャレンジ確認シート
H20 A③

主語・述語の関係を定着させるには、低学年からの積み上げが大切です。

注目！ 言葉について考えよう 5年教科書 p172~p175
「分かりやすく伝える」

2学期最後の教材です。ここで、主語・述語等、分かりやすく、伝わりやすい文章の書き方の基礎基本を確実に押さえておきましょう。

5年生に限らず、どの学年においても、学習機会をとらえて、継続的・反復的に指導していくことが大切です。

やってみよう！
チャレンジ確認シート
H21 A⑧

国語マスター問題集
中学年⑫

修飾語・被修飾語の関係

第4学年 1(4)

H29到達度調査
の課題！

「わたしは」「東京の」「夏休みに」など、言葉を選択する傾向が見られました。

【正答】
送りました(。)

指導事項
3・4年伝国イ(キ)

正答率
26. 2%

無解答率
6. 0%

全国学調・到達度の課題は、その年度だけのもの、当該学年だけのものではありません。

過去の課題も確認しながら、学年に応じて、十分な指導をしていきましょう。

(4) 次の文の——部の修飾語は、どの言葉に係っていますか。その言葉を書きなさい。
夏休みに、わたしは、東京のいところにきれいな絵はがきを送りました。

一文を二文に分けて書くために



①一文目となる主語を確認する。

一文目…「一学期は」

②文の意味を考えて、分かれるところを見つけ、(読点「、」がヒントになる)「／」などを書いて区切る。

～希望が多いものから選んだが、／

③一文目の終わりになるところに句点「。」を付け、文末を書きかえる。

～希望が多いものから選んだ。

④二文目となる文の主語を確認する。主語がない場合は、書き加える。

二文目…「二学期は」

⑤二文目の終わりに句点「。」を付け、文末を確認するとともに、同じ言葉は省略したり別の言葉(指示語等)に書きかえたりする。

みんなの希望が多いもの→それ

活動内容→一文目にあり、無くても意味が通じるので省略する。

ただ、「書きましょう」の指示だけでは書けません。どのように書けばいいか、具体的に指導しましょう。



同じように、二文を一文にまとめて書く指導も行いましょう。要点を書くことにもつながってきます。

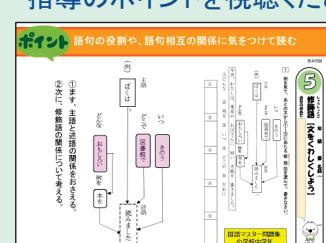
全国学調・到達度の課題は、その年度だけのもの、当該学年だけのものではありません。
過去の課題も確認しながら、学年に応じて、十分な指導をしていきましょう。

やってみよう！
国語マスター問題集
中学年⑤ ⑯

修飾語については、これまで課題がありました。学びの丘ウェブページに掲載されている指導のポイントを再度確認しましょう。

県学習到達度調査
H29結果分析と指導のポイント
を参照ください。

動画研修パッケージ
H30全国学力・学習状況調査
指導のポイントを視聴ください。



がザーに動画視聴には、学年別名とパスワードが必要です。

文章の内容をとらえるために

H29到達度調査
の課題と関連

第4学年 2(3)

(3) 筆者は最後の段落で、「自然のきびしさにたえながら生きているのです。」とのべています。そのために、めだかの体には、どのようなとくちょうがありますか。次の【やくそく】を守って書きなさい。

- ○ ○ めだかの体が小さいこと以外で、とくちょうを二つ取り上げること。
- 「というとくちょうがある。」につながるように書くこと。
- 三十字以上、五十字以内で書くこと。(句読点をふくむ)

【正答例】

【やくそく】
四十度近くまでは水温が上がり
もたえられたり、真水に海水の
ざる川口の近くでもたえられた
する

50 というとくちょうがある。

指導事項
3・4年Cイ

正答率
18.7%

無解答率
14.6%

自然のきびしさにたえられることではなく、**てきから身を守ること**（前半部分）から取り上げて書いている誤答や、「めだかの体が小さいこと以外で」という【やくそく】が守られていない誤答が多く見られました。

文章の内容をとらえていくためには、各段落にどのようなことが書かれているか、つまり「要點」（大事なこと）を押さえることが大切です。のために、各段落の中心となる文を見つけていきましょう。段落の構成をとらえることにもつながってきます。

やってみよう!

チャレンジ確認シート
H27 B②1



国語の授業づくりを考えるとき、1時間の授業をどうデザインしていくかを考えることは大切です。加えて、単元全体として児童にどのような力を身に付けさせていくのかという単元構想をしていくことも重要です。

単元として付けたい力（指導事項）は何かを見極める

光村図書が示す「指導事項系統表」や教科書に示されている単元目標などから、学習指導要領をもとに、この単元で児童に付けたい力は何か、**指導事項を明確にしましょう。**

話し合いをするから「話すこと・聞くこと」、文章を書くから「書くこと」の指導事項とはかぎりません。例えば、感想文を書くことのほとんどは、「読むこと」の指導事項です。学習内容に沿って、指導事項を見極めることが大切です。



指導事項を身に付けさせるための言語活動を設定する

「付けたい力を付けるために、言語活動を通して**指導事項を指導する**」ことを意識することが重要です。そのためにも、児童にとって、意欲を喚起し、かつ必然性のある言語活動となるものを設定しましょう。

言語活動には、音読劇をする、リーフレットを作る等さまざまな活動があります。この活動そのものが目的になってはいけません。身に付けるべき資質・能力を具現化したものが、言語活動なのです。活動の在り方について、しっかり吟味しましょう。

児童の具体的な姿を明確にイメージする

単元の終わりに児童は何かできていればよいのか、児童が行う言語活動を具体的にイメージし、観点を明確にしておく必要があります。のために、教材研究の段階で、**指導者が児童と同じ言語活動を実際に行ってみましょう。**



指導者が実際に言語活動を行うこと（紹介文を書いたり、望ましい話し合いの内容を考えたりすること）で、何をどのように指導すべきかが見えやすくなります。どこで児童がつまずくか予想もでき、それに応じた手立てを考えることもできます。また、具体的な評価規準を設定することにつながります。

単元のゴール（第三次）から逆向きに単元構想する

一貫性のある単元計画にするため、第三次のゴールの姿、つまり**本単元で求められている結果の具体的な姿から逆向きに考えていく**ことが大切です。一時間ごとにどのような指導が必要かを絞り込み、位置付けていきましょう。

「こんな発問をしてみたい。」「この『しあわせ』を使ってみたい。」という指導者の思いから、本時中心に考えてしまうと、単元としてつながりのない授業になることがあります。ゴールを明確にした上で、そこにたどり着くために必要な学習を考えましょう。また、45分間の授業においても、どのような「振り返り」ができるかというゴールから逆向きに計画しましょう。

